令和６年５月吉日

学生の皆さんへ

副学長　平 田 裕 一

大地震と火災を想定した総合訓練の実施について（ご案内）

平成23年3月に発生した東日本大震災をはじめ、直近では令和６年能登半島地震（石川県）の震度７が発生するなど、災害は前触れもなく突然に起こり、甚大な被害をもたらす事は、全員が知るところです。

本学では南海トラフ地震等に備え、危機管理施策の一環として、地震(震度６程度)を想定した総合訓練を、下記の通り実施します。

自然災害を避ける事は困難ですが、現実に災害に遭遇した場合や「警戒宣言」等が発令された際に、冷静かつ機敏な行動をとるためにも、日頃から地震防災対策等に対する意識を高め、訓練の取り組みが不可欠です（配布済の大地震対応マニュアル【学生用】の活用をお願いします（携帯用を配付済））。

訓練の主な目的は、第一に学生の皆さんが我が身の安全を守る事です。そのために、授業中に災害が発生した事を想定し、各教室から安全なグラウンドへ、速やかに避難する訓練を実施します。基本的な、避難場所、避難ルートの確認、非常放送設備の動作状況などの確認も合わせて実施します。

学生の皆さんは、訓練の趣旨・目的をご理解の上、訓練に臨んで下さい。

■訓練日時　**令和６年５月23日(木) 正午 ～13時頃**
（授業では、11：50頃から事前説明あり）
※　小雨決行。
※　雨天の場合、避難誘導以降を教室での説話・指導に変更。〔各教室で「地震発生時等における学生の心得」に基づく有事の際の対応の説話〕

■場　　所　至学館大学キャンパス構内

■訓　　練　総合訓練(震度６程度の地震と、それにともなう火災の発生を想定)

■参 加 者　原則、**全学生及び全教職員。**

■訓練内容

＜放送に従い行動、避難を実施して下さい。＞

・授業中の学生は、担当教員の指示に従って避難してください。

・授業以外で教員あるいは職員と一緒にいる学生は、教職員の指示に従い、グラウンドまで速やかに避難してください。

・避難ルートは、近くに待機している職員の指示に従ってください。
（各建物の階段付近に職員が待機しています）

・グラウンド避難後は、教職員の指示に従い整列待機してください。

＜注意事項＞

・大学（キャンパス）内にいる学生は、原則全員参加となります。

・避難時は、貴重品を持って避難してください。

・避難時の転倒、人や建物との接触によるケガには留意してください。

・避難時は、私語を慎み、整然と足早に避難してください。

・雨の場合、当日の履物にも注意してください。　以上

地震発生時等における学生の心得

一．まずは、自己の生命の安全を第一に考えること

二．地震が発生したらまず次の行動をとること

○　窓や棚のように、ガラスが割れたり中のものが飛び出しそうな場所から離れましょう。

○　机の下などにもぐるか、バッグ・衣類などで頭を覆うなどして、ガラス、黒板、テレビモニター、蛍光灯などの落下物から頭と手足を守りましょう。

○　余裕があれば、ドア付近にいる人はドアを開け、出口の確保をしましょう。

○　実験中など火気を使っているときは、火を消し、余裕があればガスの元栓を閉めましょう。また、薬品などから離れましょう。ただし、揺れているときは控えます。

○　電気器具はスイッチを切り、可能であればプラグを抜きましょう。

○　広場やグラウンドなど、落下物がない場所にいる場合は、その場で座り込み、揺れがおさまるのを待ちましょう。

○　廊下等にいるときは、梁・柱のある場所に行き、身を伏せましょう。

○　倉庫等にいるときは、背の高い収納棚からすぐ離れ、机など強固なものの下に潜り込み揺れがおさまるのを待ちましょう。

○　大学の緊急放送を最後までしっかり聞きましょう。

三．避難時の対応心得

○　大学の緊急放送を最後までしっかり聞きましょう。

○　冷静に落ち着きましょう。その場の状況が冷静に判断できたら、緊急指定避難場所（グラウンド）へ避難しましょう。

○　絶対に押したり、走ったり、私語をしないで下さい。

　　おさない・**か**けない・**し**ゃべらない・**も**どらない・**な**かない。

○　階段での混雑に注意し、下りるときは前の人との間隔を考え、先を争わないように順序よく歩きましょう。

○　前の人が倒れたりした場合は、すぐに後ろの人が右手を上げて大きな声で合図しましょう。

○　避難を開始したら、教室等に引き返さないで下さい。

○　窓ガラスは閉めないで下さい。

○　教室を最後に出る人は、人が残っていないか確認して下さい。

○　エレベーターは絶対に使用しないで下さい。階段を利用下さい。

○　屋外で実技等を行っている場合は、適宜判断して避難しましょう。

○　負傷者を発見したときは、単独での救助ができるか判断し、無理な場合は、応援を呼びましょう。

※　いずれも指定避難場所へ避難するが、場合によっては他の建物内、あるいは指示された緊急避難場所へ避難する。

四．“いざという時のために”

＜もしもの場合＞

①　建物の下敷きになってしまったら‥‥

　声や音、光などの信号を発して、助けを呼びましょう。身動きできる場合は、周囲の障害物をやたら動かさない。自力脱出が無理なときは、救助されるまで体力の消耗を防いで待ちます。

② 建物の下敷きになっている人を発見したら‥‥
　自分の力で救出できるかどうかを判断して、絶対無理をしないで、応援を呼びましょう。
③ 倉庫やエレベータなどの内部に閉じ込められてしまったら‥‥
　声や音、光などの信号を発して、自分の所在を外部の人に知らせ、あとは落ち着いて救助を待ちます。

＜火災発生時の避難の方法＞

① 口、鼻はハンカチ、衣類の袖などで覆います。水で濡らせばなお良い。そして、煙を吸い込まないようにして、姿勢を低く保ち、なるべく煙を避けて下層階へ脱出しましょう。
② 廊下などの通路が煙で充満しているときは、無理をして室外へは出ず、部屋の扉を閉め、ぬらした布やガムテープ等で扉などの隙間をふさいで煙が室内に入らないようにし、窓を開けて助けを呼びましょう。
③ エレベーターは絶対に使用しないで下さい。

五. 余震への備え

　大きな地震には必ず大きな余震があります。窓・ドアを開け、避難ルートを確保します。

震度６程度の揺れとは・・・・・ 立っていることが困難になる程度の揺れで，次のことが予測されます。

■室内の状況：固定していない重い家具の多くが移動，転倒。開かなくなるドアが多発。
■屋外の状況：かなりの建物で，壁のタイルや窓ガラスが破損，落下。
■木造建物　：耐震性の低い住宅では，倒壊の恐れあり。耐震性の高い住宅でも，壁や柱が破損する可能性あり。
■鉄筋コンクリート造建物
　：耐震性の低い建物では，壁や柱が破壊する可能性あり。耐震性の高い建物でも壁，梁，柱などに大きな亀裂が生じる可能性あり。
■ライフライン
　：家庭などにガスを供給するための導管，主要な水道管に被害が発生。
　［一部の地域でガス，水道の供給が停止し，停電する可能性あり］
■地盤・斜面：地割れや山崩れなどが発生する可能性あり。